

骨密度測定装置の地域共同利用のご案内

本邦では、人口の急速な高齢化に伴い、骨粗しょう症の患者が年々増加しており、現時点で有病者数 1,300 万人といわれています。骨粗しょう症に罹患すると椎体、前腕骨、大腿骨近位部などの骨折が生じやすくなるため、医療だけでなく社会的にも重要な課題になっています。

骨粗しょう症には、原発性骨粗しょう症と続発骨粗しょう症とがありますが、骨密度の状態を知るには、いくつかの検査があります。治療後の評価を含めて、腰椎正面 DXA が適しているといわれています。また、腰椎で正確に測定できない場合には、大腿骨近位部 DXA が適しているといわれています。日本骨代謝学会ならびに日本骨粗鬆症学会の診断基準においては「骨密度の測定部位は原則として腰椎または大腿骨近位部とする。これらの測定が困難な場合には、橈骨、第二中手骨で測定してもよい」とあります。しかしながら、腰椎や大腿骨を DXA 法で測定できる装置は高価であり、県内でも保有する施設がまだまだ少ない状況です。

山梨県立中央病院では、当院の連携登録医を対象に DXA 法による骨密度検査の共同利用を平成 30 年 11 月 5 日より開始することになりました。骨粗しょう症の疑いがある方、既に治療されている方の骨密度評価などに是非ご活用を頂ければ幸いです。なお、検査結果は、後日紙面に印刷したものを添付させていただきます。なお、検査データは当院において電子保管されます。

検査費用は、腰椎と大腿骨を撮影した場合、以下の金額になります。

3割負担・・・ 2,964 円。 2割負担・・・ 1,976 円。 1割負担・・・ 988 円。

DXA (Dual energy X-ray Absorptiometry) 法

二重エネルギー X 線吸収測定法といわれ、骨の密度を測定する方法の一つです。強い X 線と弱い X 線を体にあて、この二種類の X 線が体を通過した量を測定する仕組みです。

誤差が少なく、精度が高いところが特徴です。検査に伴う被ばくは、微量の X 線を使用しますので、40 μ Gy 程度と低被ばくです。検査時間は、15 分程度です。

*妊娠中、またはその可能性がある方の検査は控えさせていただきます。

〈参考文献〉

- ・「原発性骨粗鬆症の診断基準 (2012 年度改訂版)」
日本骨代謝学会・日本骨粗鬆症学会合同原発性骨粗鬆症診断基準改定検討委員会
- ・「骨粗鬆症の治療と予防ガイドライン 2015 年版」
骨粗鬆症の治療と予防ガイドライン作成委員会
(日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会、骨粗鬆症財団)



GE 社製 PRODIGY ADVANCE

【問合せ先】

山梨県立中央病院 患者支援センター
〒400-8506
山梨県甲府市富士見一丁目 1 番 1 号
TEL 055-253-9000 (直通)